## 山口市南部の(農)川西で 飼料用米とWCS用稲の生育調査を開始

山口農林事務所畜産部 平成23年7月14日

山口市深溝にある農事組合法人川西(組合員163名、原田昭雄組合長)では、嘉川と佐山のエリアで圃場利用集積を進め、整備が完了した圃場から順次、夏は水稲・大豆、冬は麦を主体に作付けています。23年の夏は、72haの水稲のうち約11haで新たに家畜用の飼料としての飼料用米・WCS用イネの栽培を開始しました。

家畜用の稲のうち、5.6haでは飼料用米専用品種の「モミロマン」が栽培され、秋には 籾が鶏用の餌として出荷されます。また、別の5.6haでは食用品種である「日本晴」をW CS用イネとして栽培し、9月下旬には茎葉と籾を一緒に刈り取りロール状に巻いてビ ニールでラップしたサイレージが乳牛用の餌として出荷されます。

山口農林事務所畜産部は、農業部と連携して栽培から収穫·販売までの指導をすることとしており、水稲の生育調査に併せて家畜用の稲についても調査を行っています。

※WCS(ホールクロップサイレージの略)



梅雨明け後の調査開始



実証ほでの調査